

鳥取市校区審議会委員（第14期）

任期：平成30年10月15日～令和2年10月14日

区分	氏名	所属、職業、住所等	6/24 出欠
学識経験者 (9名)	ほんな としまさ 本名 俊正	鳥取大学名誉教授	
	なんぶ さとし 南部 敏	鳥取市自治連合会（自治連合会会長）	
	たにぐち ひであき 谷口 英昭	鳥取市小学校校長会（明德小学校校長）	
	おんだ まさあき 音田 正顕	鳥取市中学校校長会（桜ヶ丘中学校校長）	
	うえた みつのり 上田 光徳	鳥取市小学校PTA連合会（美和小PTA会長）	
	よしざわ はるき 吉澤 春樹	鳥取市中学校PTA連合会（北中PTA会長）	
	かわぐち ゆみこ 川口 有美子	公立鳥取環境大学環境学部准教授	
	やまだ やすこ 山田 康子	ゆうゆうとっとり子育てネットワーク代表	
	ふくやま けい 福山 敬	鳥取大学工学部教授	
公募 (3名)	うしお りゅういちろう 牛尾 柳 一郎	無職（北園1丁目）	
	もりもと さゆり 森本 早由里	放課後児童支援員（河原町布袋）	
	たみや さちよ 民家 幸世	自営業（布勢）	

（順不同、敬称略）

事務局	なかむら たかひろ 中村 隆弘	教育委員会事務局次長(兼)教育総務課長(兼)校区審議室長
	たけた じゅん 竹田 潤	教育委員会事務局教育総務課校区審議室主幹 (兼)学校教育課指導主事
	おおつぼ むねおみ 大坪 宗臣	教育委員会事務局教育総務課校区審議室主任

第14期 第4回 鳥取市校区審議会の審議概要について

- 1 日時 令和元年5月8日(水) 14時00分～16時30分
- 2 会場 鳥取市役所 第2庁舎5階 第1会議室
- 3 出席者 本名会長、谷口委員、音田委員、上田委員、吉澤委員、山田委員、福山委員、牛尾委員、森本委員、民家委員
事務局：中村次長、竹田主幹兼指導主事、大坪主任

4 報告事項

- (1) 第3回校区審議会審議概要について
- (2) 校区審議に関連する活動報告について
- (3) 江山地区義務教育学校の設置について

5 議事

- (1) 千代川以西エリアの学校のあり方について

当該エリアについて、これまでの議論を踏まえ、校区審議会として考えられる校区再編いくつかの方法を整理し、審議しました。

【主な意見】

- ・千代川以西エリアの一部だけ変更するというのは、安全性が解消される子どもとそうでない子どもが出てくることになり、それでいいものか引っ掛かりを感じる。
- ・暫定的な経過措置を取りながらも、安全面を最優先に考えていくべきである。
- ・過去に城北小・北中に勤務していた教職員に、安全性についてアンケートなりで意見を伺うと率直な考え方が見えてくるのではないか。
- ・適正な位置に中学校ができれば、もっと違う発想も出てくるのではないか。
- ・10年くらいのスパンで方向を示した方がいいのではないか。
- ・千代川以西エリアの児童の数が増加することも予測されるので、単純に世紀小に再編するだけでなく、世紀小・大正小・高草中も含めた検討が必要ではないか。
- ・地域の合意ということを考えると、新たな学校をつくるということが理想的だと思う。
- ・特定の校区だけを議論しているとなかなか理解が得にくいところがあるので、全体的に偏りを正すような検討が必要ではないか。

【会長総括】

子どもたちを安全に通学させるということは大人の責任であり、併せて子どもたちにとってより良い教育を行っていくことを結び付けて考える必要がある。近隣の小中学校を含めての再編も考慮し、次回以降も検討していきたい。

- (2) 本市の中長期的な校区のあり方について

鳥取市のまちづくり面も考慮した中長期的な校区のあり方についての答申を策定するにあたり、その柱立てや、2040年を見据えた適正規模・適正配置の基準について審議しました。

【会長総括】

適正規模の考え方として、「国の基準に合わせる方がいいのではないか」、「今の鳥取市の基準に近い方がいいのではないか」という二つの意見と、併せて「通学距離も考慮していくべきではないか」という意見もあり、今後さらに議論を進めながら検討していきたい。

校区審議に関連する活動報告

No	月 日	実施時間	場所	会議名	内容等
1	R1.5.14 (火)	10:00 ~ 12:00	江山中学校	小中一貫教育企画委員会 (1)	職員組織とスケジュールについて
2	R1.5.23 (木)	14:00 ~ 16:45	美和小学校	江山中学校区小中一貫教育 振興会総会・教職員研修会	義務教育学校の特設教科について
3	R1.5.28 (火)	19:00 ~ 21:00	江山人権福祉センター	江山地区義務教育学校設立 準備委員会 (第6回教育 環境整備部会)	仮設校舎設置についての報告、校 章・校歌について
4	R1.6.4 (火)	9:30 ~ 11:00	江山中学校	小中一貫教育企画委員会 (2)	教育課程について
5	R1.6.4 (火)	19:00 ~ 21:00	大和地区公民館	江山地区義務教育学校設立 準備委員会 (第6回教育 環境整備部会)	広報紙の内容、学校応援組織、進 捗報告会について
6	R1.6.13 (木)	19:00 ~ 20:30	美和小学校	第8回江山地区義務教育 学校設立準備委員会	仮設校舎設置についての報告、校 章・校歌、広報紙の内容、進捗報 告会について
7	R1.6.18 (火)	19:00 ~ 20:30	気高町総合支所会 議室	第2回気高地域の子ども の未来を応援する連絡協 議会	各地区での協議状況の説明、意見 交換
8	R1.7.1 (月)	19:00 ~	江山人権福祉セ ンター	江山地区義務教育学校設立 準備委員会 (第7回教 育環境整備部会)	校歌について
9	R1.7.3 (水)	19:00 ~	大和地区公民館	江山地区義務教育学校設立 準備委員会 (第7回教 育環境整備部会)	広報紙の内容、学校応援組織につ いて

江山地区義務教育学校設立準備委員会



での検討がスタートしました!

平成32年4月の義務教育学校開校を目指して!

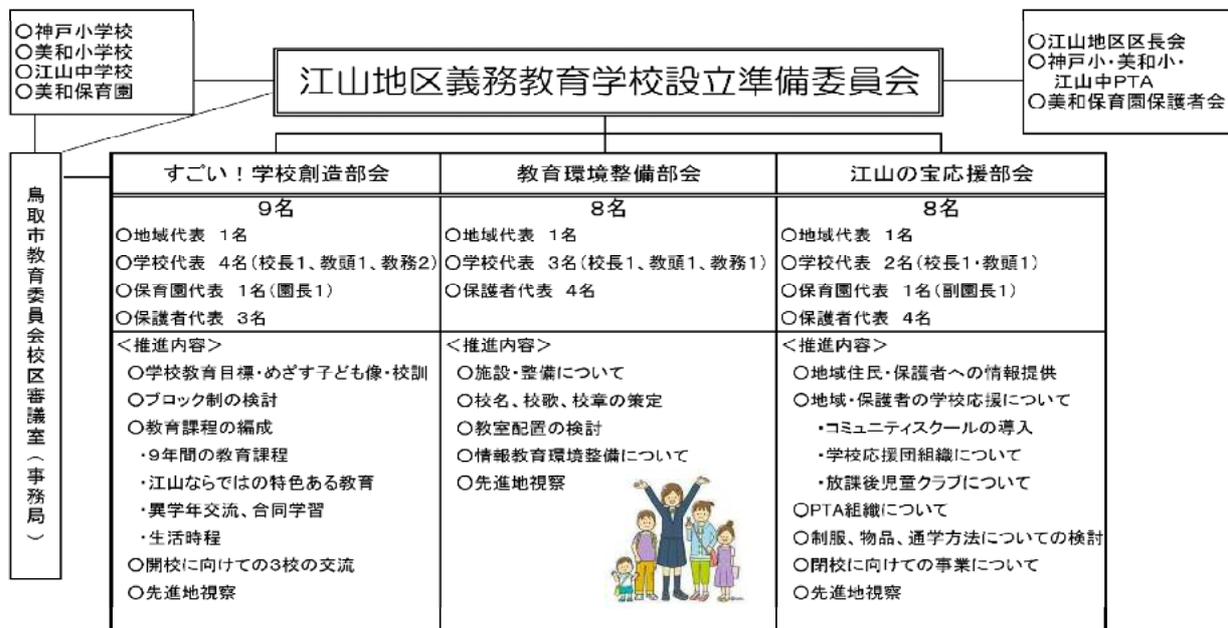
7月にお知らせしたように、「江山地区に小中一貫校を設置する。」という鳥取市校区審議会の答申を受けて、鳥取市教育委員会は、平成30年6月29日に以下のように方針を決定しました。

- 神戸小、美和小、江山中を統合し、新たな義務教育学校を開設する。
- 学校の位置は美和小の位置とし、開校時期は平成32年4月1日とする。
- 美和小の校舎を引き継ぐが、大規模改修等の必要な整備を行う。
- 義務教育学校の教育理念、教育環境整備、学校名等については、関係学校職員及び地域の関係者で組織する会議で検討し、その検討結果を尊重する。

第1回「江山地区義務教育学校設立準備委員会」開催!

この方針に基づき、鳥取市教育委員会は、「江山地区義務教育学校設立準備委員会」を設置し、8月27日に義務教育学校開設に向けた検討を開始しました。構成委員は、以下の25名です。

- 地域代表3名(江山地区区長会推薦により3地区から1名ずつ)
- 保護者代表11名(3校のPTA及び美和保育園の保護者会代表)
- 学校代表11名(3校の教職員及び美和保育園の職員代表)



準備委員会では、今後、定期的に便り(1~2ヶ月に1回程度)をお届けするとともに、鳥取市教育委員会・各学校のホームページで、学校教育目標やめざす子ども像、学校名等々の検討状況を、随時地域の皆様にお知らせします。

皆様のご意見もいただきながら、新しい学校づくりを推進していきます。ご質問などがあれば、準備委員会までお問い合わせください。

発行: 江山地区義務教育学校設立準備委員会
 事務局: 鳥取市教育委員会事務局校区審議室
 TEL:(0857)20-3089
 E-mail:kokushingi@city.tottori.lg.jp

江山の明日



第 1 号
平成30年10月

～義務教育学校設立準備委員会ニュース～

栗本保夫委員長あいさつ

平成29年9月に鳥取市へ小中一貫校設立の要望書を提出し、協議検討した結果、平成30年7月に江山中学校、神戸小学校及び美和小学校を統合した義務教育学校(小中一貫教育校)を平成32年4月に開設することが決定されましたことは、皆様にお知らせしたとおりです。

これを受けて、本年の8月に『江山地区義務教育学校設立準備委員会』を立ち上げました。

要望書にも記載している、「学力の向上を含め、自分の考えや思いを伝えられる力や誰とでも関わることができるコミュニケーション能力の高い子どもを育成する」にはどのような学校であることが望ましいのかを、地域の皆様と共に実現に向けて協議していきたいと願います。

各部長より一言

「すごい！学校創造部会」 高木 雅子(神戸小学校長)

部会では主に、教育ビジョンや教育課程について話し合いを進めています。3校の伝統文化を受け継ぎながら未来を創造し、「すごい！」と思わず言いたくなるような学校づくりをめざしていきたいと思えます。

「教育環境整備部会」 上田 光徳(美和小学校PTA会長)

教育環境部会では、校舎の増改築やグラウンド整備、学校名・校章などの検討を中心に行います。子ども達が安心して学び夢を育むことができる学校づくりを目指します。保護者・地域の皆様のご協力をお願いします。

「江山の宝応援部会」 山本 賢璋(神戸小学校PTA会長)

この部会は主に、地域の方への情報発信です。3地区の伝統や文化、そして地域の皆様からのご意見を反映したいと思います。お聞きしたいことやご意見をお持ちの方は近くの準備委員会役員にお知らせ下さい。

江山地区義務教育学校設立準備委員会委員名簿

委員長:栗本保夫 副委員長:上田光徳、山本博美

すごい！学校創造部会		
1	◎高木 雅子	神戸小学校校長
2	○長谷川 理恵	江山中学校教頭
3	栗本 保夫	神戸地区区長会推薦
4	坂本 訓子	神戸小学校PTA副会長
5	有田 京子	美和小学校PTA副会長
6	谷口 範仁	江山中学校PTA会長
7	塩見 雅代	美和保育園園長
8	田村 薫	美和小学校教務主任
9	安木 良	江山中学校教務主任

教育環境整備部会		
1	◎上田 光徳	美和小学校PTA会長
2	○安田 政彦	美和小学校校長
3	松本 広幸	美穂地区区長会推薦
4	森田 匡隆	美和保育園保護者会会長
5	牛尾 早知	神戸小学校PTA
6	山本 敏夫	江山中学校PTA
7	武林 真理	美和小学校教頭
8	小谷 直和	神戸小学校教務主任

江山の宝応援部会		
1	◎山本 賢璋	神戸小学校PTA会長
2	○山根 啓嗣	神戸小学校教頭
3	中村 徹	大和地区区長会推薦
4	森下 将伍	美和保育園保護者会
5	前田 真琴	美和小学校PTA
6	石尾 万紀子	江山中学校PTA副会長
7	太田 信子	美和保育園副園長
8	山本 博美	江山中学校校長

(◎:部会長 ○:副部会長)

義務教育学校とは？・？・？

1人の校長の下、1つの教職員組織が置かれ、義務教育の9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する新しい種類の学校

👉ここがポイント！

- ①平成28年4月に制度化された新しい学校。(イメージは小学校+中学校)
 - ②1つの学校なので、もちろん校長は1人。職員の組織も1つ。
 - ③学年は1年生から9年生までの9学年。(中1、中2、中3とは呼ばない)
 - ④義務教育9年間の学校教育目標を設定する。
 - ⑤「めざす子ども像」は、15歳(9年生)の姿
 - ⑥特色のある教育課程を編成することができる。
- (例)新しい教科をつくることができる。



学習の内容を入れ替えることができる。

学年段階の区切りを自由に設定できる。(6・3制以外にできる) など

		義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校
修 業 年 限		9年 (前期課程6年+後期課程3年)	小学校6年、中学校3年
組 織 ・ 運 営		一人の校長、一つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織
教 育 課 程		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 9年間の教育目標の設定 ◆ 9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成 	
特 例	独自教科新設	○	○
	内容の入替等	○	○

県内初の小中一貫校(現在の小中一貫型小学校・中学校)が鳥取市に誕生したのは平成20年で、今の湖南学園です。この後、福部未来学園も小中一貫校となりました。小中一貫校と言っても当初はあくまで小学校と中学校は別々の学校でした。

このような小中一貫校は不登校やいじめ等が顕在化していく社会状況もあり県内だけでなく、全国的に広がりを見せ、国は小中一貫校を制度化し、上の表にあるように2つの学校を定めました。

江山地区では、「義務教育学校」をめざし、本委員会において、どのような教育を行うのか、具体的な教育課程をどう編成するのかなど、新しい義務教育学校の土台となるところを検討していきます。



発 行：江山地区義務教育学校設立準備委員会
 事務局：鳥取市教育委員会事務局校区審議室
 TEL:(0857)20-3089
 E-mail:kokushingi@city.tottori.lg.jp



今年度の中学校区の取り組み

5月30日(水) スマイル遠足(3校合同)

10月3日(水) 「夢イベント」 テーマ「夢を持って生きる」

二宮金次郎(尊徳)のご子孫である中桐万里子さんの講演会を開催し、美和・神戸小学校
5・6年生と江山中学校の生徒がお話を聞きました。

10月17日(水) 3校1園保護者説明会を開催し、義務教育学校に期待することなどについて話し合いました。

10月31日(水) 美和小学校と神戸小学校の5年生と美和保育園のきりん組が交流会をしました。

各部会の報告

「すごい！学校創造部会」

中学校を卒業する(義務教育を終える)段階を見据えて、「めざす子ども像」を下記のとおり決定しました。

○自ら学び、豊かに表現する子ども

○思いやりの心を持ち、進んで人と関わる子ども

○心も体も健やかに、たくましく生きる子ども

その他、特色ある教育、ブロック制、生活時程についても検討しています。

「教育環境整備部会」

現在の美和小学校の校舎では教室の数が不足すること、耐震化工事等改修はされてはいるが建築後50年が経過していることから、「長寿命化校舎」への改修とそれに伴う仮設校舎の建設について検討しています。必要な教室数、各教室や放課後児童クラブの部屋等の配置を検討中です。

また、通学方法が変更となる児童生徒のために、バス停の位置や横断歩道等通学路の安全確保についても検討していきます。

「江山の宝応援部会」

神戸地区の児童生徒の通学については、現行の通学費補助金制度を活用した路線バスでの通学となる方向ですが、部活動のある中学生と小学生では下校時間が異なるので、生活時程に沿ったバスダイヤを検討することとしています。その際に、通学で利用する児童生徒のみならず、一般の利用者のことも考慮する必要があります。その際に懸念されるのが、増便やダイヤ変更をバス会社をお願いしても、自家用車での送迎で利用が少なくなるのではということです。

放課後児童クラブについては、運営について検討していきます。

閉校記念事業については、各学校で事業の有無、内容を保護者や地域と協議していくこととします。

義務教育学校設立準備委員会の進捗報告会のお知らせ

設立準備委員会で検討していることを「江山の明日」というニュースでお知らせするとともに、報告会を適宜開催し、地域・保護者・学校が一体となって今まで以上に「地域とともにある学校づくり」を進めていきます。

第1回は、設立準備委員会の検討状況と義務教育学校とはどういう学校なのかについて説明をする報告会を下記日程で行いますので、多くの方のご出席をお願いします。

12月10日(月) 午後7時～ 美穂地区公民館

12月12日(水) 午後7時～ 大和地区公民館

12月13日(木) 午後7時～ 神戸地区公民館

H30～H31年度 江山地区義務教育学校開校までのスケジュール H30.11.21現在

年度	H30					H31												H32			
検討項目等	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
設立準備委員会	第1回 8/27 ○役員選出 ○委員会決定 ○今後のスケジュール ○学校施設整備	第2回 9/25 ○今後のスケジュール ○めざす子ども像と小中一貫教育ビジョン ○学校施設整備	第3回 10/22 ○学校施設整備 ○広報誌の発行 ○設立準備委員会進捗報告会	第4回 11/21 ○めざす子ども像と特色ある教育 ○学校施設整備 ○広報誌の発行 ○設立準備委員会進捗報告会 ○校名について		第5回 先進地視察		第6回	第7回	第8回 先進地視察		第9回		第10回 先進地視察		第11回				第12回	
すごい！学校創造部会	第1回	第2回	第3回	第4回		第5回		第6回		第7回		第8回		第9回		第10回					
小中一貫教育ビジョン	→																				
学校教育目標・めざす子ども像	→																				
ブロック制の検討	→																				
校訓の検討	○今後のスケジュール ○めがす子ども像と小中一貫教育ビジョン	○めがす子ども像と小中一貫教育ビジョン ○ブロック制 ○生活時程	→																		
開校に向けての3校の交流について	→																				
9年間のカリキュラム作成	→																				
江山ならではの特色ある教育	→																				
学校行事・異学年交流等	→																				
生活時程	→																				
教育環境整備部会	第1回	第2回	第3回	第4回		第5回		第6回		第7回		第8回		第9回		第10回					
施設・整備について(改修校舎・増築校舎)	→																				
施設・整備について(仮設校舎)	→																				
校名の策定	○今後のスケジュール ○めがす子ども像と小中一貫教育ビジョン ○学校施設整備	○学校施設整備案の作成(改修工事)(仮設校舎)	→																		
校章の策定	→																				
校歌の策定	→																				
教室配置の検討	→																				
情報教育環境整備	→																				
江山の宝応援部会	第1回	第2回	第3回	第4回		第5回		第6回		第7回		第8回		第9回		第10回					
地域住民・保護者へ情報提供	→																				
学校応援団組織について	→																				
コミュニティスクールの導入	○今後のスケジュール ○めがす子ども像と小中一貫教育ビジョン ○通学方法	○広報誌(名称)(1号の検討) ○報告会の開催について ○通学方法	→																		
通学方法	→																				
PTA組織	→																				
開校に向けての事業	→																				
学用品等の物品	→																				
制服	→																				

義務教育学校開校・開校記念式(日)

(発行)
江山地区義務教育学校設立準備委員会
(事務局)
鳥取市教育委員会事務局
校区審議室
TEL:
(0857)20-3089
mail:
kokushingi@city.tottori.lg.jp



～義務教育学校設立準備委員会ニュース～

美和保育園・美和小学校・神戸小学校による合同学習を実施しました

- 6月11日(月)於:美和小【1年生:体育・学活／2年生:国語・体育】
- 7月 6日(金)於:美和小【1年生:国語・生活／2年生:算数・生活／3年生:道徳・体育／4年生:学活・外国語活動】
- 7月 9日(月)於:神戸小【5年生:社会／交流給食】
- 7月17日(火)於:美和小【6年生:学活・図工】
- 10月18日(木)於:神戸小【2年生:学活／4年生:総合的な学習・外国語活動／交流給食】
- 10月25日(木)於:美和小【1年生:学活・生活】
- 10月31日(水)於:美和保【美和保育園きりん組と美和小・神戸小5年生との交流】
- 11月 8日(木)於:神戸小【3年生:さくらやまマラソン、発表(音読・社会見学・ダンス)／交流給食】
- 12月13日(木)於:美和小【1年生:生活／2年生:生活】
- 12月17日(月)於:美和保【美和保育園きりん組と美和小・神戸小5年生との交流】
- 12月18日(火)於:神戸小【6年生:鳥取市役所職員による出前授業／交流給食】

各部会の報告

「すごい！学校創造部会」

めざす子ども像「自ら学び、豊かに表現する子ども」「思いやりの心もち、進んで人と関わる子ども」「心も体も健やかに、たくましく生きる子ども」を受け、「交流」と「情報」を特色ある教育のキーワードとして協議しています。

- 多様な人やモノやこととの交流を通して、進んで人と関わり豊かに表現するコミュニケーション力を育成する。
- 地域との交流を通して、豊かな人間関係を築き、地域の伝統文化を継承し、ふるさとを大切に思う心を育成する。
- 地域での交流体験の積み重ねで、共生社会をめざしたまちづくりについて考え、自分自身の生き方につなげる。
- グローバル化社会やAI(人工知能)の時代を生きる子どもに必要な英語やICT(情報通信技術)を使った双方向のコミュニケーション力を育成する。
- 超スマート社会に必要な力とスキルの育成

「教育環境整備部会」

「長寿命化校舎」への改修で新しくなる学校施設の教室配置や改修工事に伴う仮設校舎について検討中です。また、校名・校歌・校章の制定方法を検討しています。

- 新しい学校の校舎は現校舎を長寿命化改修し、不足する教室を増築
長寿命化改修工事期は仮設校舎を使用する。
- 仮設校舎(建設場所:校庭)
- 校名案は公募により今年度中に決定予定 ※ 詳細は別紙「募集要項兼応募用紙」をご覧ください。また、「募集要項兼応募用紙」は神戸・大和・美穂地区公民館にも設置してありますので、そちらで受け取ることもできます。
- 校歌・校章は来年度後半に決定予定

「江山の宝応援部会」

通学方法等について、協議しました。

<通学方法>

- 2019年10月頃までに日ノ丸バスにダイヤ改正を要望
- 中学生の自転車通学区域をどうするか？
中学生の自転車通学区域と小学生の徒歩通学区域が重なっている地域の通学方法をどうするか等生活時程や部活動後の下校時間等を考慮して決定する。
- 進捗状況報告会
12月10日(月)美穂地区公民館、12日(水)大和地区公民館、13日(木)神戸地区公民館で開催しました。
- 意見募集のため、「意見・質問ボックス」を各地区公民館に設置

義務教育学校Q & A

小中一貫教育のメリットはなんですか？

文部科学省によると、小中連携・一貫教育の取り組みを進めているほぼすべての市町村で成果があったといいます。具体例としては、

- ・中学生の不登校の減少
- ・学力調査などの平均正答率の上昇
- ・児童生徒の規範意識の向上
- ・異年齢集団での活動による自尊感情の高まり
- ・教職員の児童生徒の理解や指導方法の改善意欲の高まり

などがメリットとして挙げられています。

鳥取市の各中学校区でも、小中連携で教育がなされており、江山中学校区では美和保育園を交えた「特色ある江山中学校区推進委員会」のもとで、学校・家庭・地域の3者が協働して共通した「めざす子ども像」を目指した教育がなされています。

しかし、小中連携教育はそれぞれの園や学校がそれぞれで目標をめざしていくもので、保育園から小学校、小学校から中学校への円滑な接続をめざすものです。

それに対して、「小中一貫教育を行う義務教育学校」は、一つの学校として一貫した系統的な教育を行うことで、小中連携よりも教育効果があります。ここでは、小中一貫教育のメリットを活かして、江山校区に設置される施設一体型の義務教育学校のねらいについて考えてみます。

当然、メリットがあればデメリットもありますが、デメリットについては、その対処方法と合わせて次回考えていきます。

江山地区に義務教育学校を設置するねらい

ねらい 1 子どもたちの学力を伸ばす

- 9年間の連続した系統的な学習で、学力を高める。
- 子ども学習状況(つまずき等)を把握して、学習指導に当たる。
- 学年の範囲を超えて指導内容の入れ替えが可能になる。
＜例＞中学校1年数学「正と負の数」を小学校6年算数で前倒して行う。
- 教科担任制を取り入れ、より専門的な授業を行う事によって、学力を高める。

ねらい 2 子どもたちの不安を取り除く

- 教育環境が変わることから来るいわゆる「中1ギャップ」等の不安を取り除く。
※「通い慣れた学校」、「知っている先生」

ねらい 3 異学年交流活動で自尊感情を高める

- 中学生は、低学年に対する思いやりの気持ちが育ち有用感が高まる。

ねらい 4 良きモデルと憧れで規範意識を育てる

- 年齢差がある共同生活で子どもたちの規範意識を高める。
- 低学年児童が中学生に対する憧れを持つことができる。

ねらい 5 多人数、多年齢での集団生活で協働性を身につけさせる

ねらい 6 多年齢に応じたコミュニケーション能力を育成する

ねらい 7 地域を思う子を育てる

- 江山校区に学校を残し、地域の中で子どもを育む。
- 地域の人達と交流したり、地域教材を学んだりすることで、地域の良さを知らせる。

ねらい 8 地域住民がこれまで得た経験や知識を活用して、積極的に学校に関わることで、地域の活性化をはかる



～義務教育学校設立準備委員会ニュース～

今年度も残り少なくなりました。1月末に三重県津市立みさとの丘学園を、2月始めに京都府亀岡市立亀岡川東学園を視察しました。すばらしい施設環境や取り組みで、大きな成果を出しています。先進校を参考にして、よりすばらしい学校となるように委員一同、意を新たにしました。

各部会の報告

「すごい！学校創造部会」

ブロック制、3校の交流、小中一貫教育のビジョンについて協議しました。

☆ブロック制については、児童生徒の心身の成長実態と学習効果を考え、これまでの6・3制（小学校1～6年、中学校1～3年）よりも小学校1年～4年までの4年間、小学校5・6年と中学校1年生の3年間、中学校2・3年の2年間をブロックに分ける4・3・2制を採用することとしました。

☆3校交流については、行事交流だけでなく学習の交流を取り入れるなど、来年度の交流や内容を検討し、統合を円滑にしていくようにします。

☆「めざす子ども像」に続き、「めざす家庭像」、「めざす地域像」について検討し、小中一貫教育ビジョン(案)を作成しました。次号以降に紹介します。

「教育環境整備部会」

校名募集の要項や選定方法を協議しました。

☆江山地区にゆかりのある方を対象に、2月に校名を募集したところ、240通の応募がありました。準備委員会では、3月18日に校名案として選考した結果を、市長に報告します。その後、4月に市長より校名案が発表され、6月の市議会に新しい校名が提案される予定です。

☆校歌・校章については、校名決定後に選定方法等を協議していきます。

「江山の宝応援部会」

通学方法と制服について協議しました。

☆バス通学区域として検討しているのは、神戸地区全域と赤子田地区、猪子地区です。横枕地区は、悪天候時に利用します。猪子・横枕線は今年の3月末で日ノ丸バスが廃止となりますが、大和地区で代替え運行を検討中とのことです。バスダイヤについては、生活時程にあわせたダイヤとなるよう日ノ丸バスに要望していきます。

自転車通学については、現時点では、単に学校までの距離だけでなく、部活動の場所や終了時間等を考慮して決めていくこととしました。また、集団登校についても検討していきます。

☆制服については、制服検討委員会を設けて決めていくことにしました。

準備委員会に地域住民の方から提言がありましたので、回答とともに紹介します。

【提言】

☆地域住民が利用できる学校図書館の設置要望がありました。

<回答> 教育環境整備部会で校舎の増改築に合わせて検討していきます。

☆隣接する住居跡の活用について、植栽を残して生活科や総合的な学習の時間等で活用してはどうかという提言がありました。

<回答> 隣接する住居跡は、基本的に駐車場として整備する予定としていますが、児童生徒の安全性を考慮して、土地の有効利用を検討していきます。

義務教育学校Q&A

前号では、義務教育学校や小中一貫教育のメリットを考えましたが、素晴らしいメリットがある一方でデメリットや課題もあります。今回は江山地区に新設される小規模な義務教育学校のデメリットと課題とその対策を考えてみたいと思います。

卒業まで人間関係が固定化される

児童生徒数が少なく、クラス替えができないため、入学から卒業まで学年の生徒の顔ぶれが基本的に変わりません。（これは現状でも同じですが。）そのため、人間関係が固定化しやすく、人間関係がこじれた際に立ち直るチャンス、リセットするチャンスが得られにくいことがあります。

そうしたことから、先進校では、ネガティブな方向に向かわないように、少人数を生かして児童生徒と教職員がじっくり向き合い心のケアをしていっているようです。

小学校卒業・中学校入学といった節目がない

9年間の教育ですので、通常行われる小学校の卒業式、中学校の入学式といった儀式がありません。そこで4・3・2制といったブロック制を活用し、次のブロックに移行するとき、ブロック修了式・ブロック進級式といった行事を行い、節目をつけているところが多くあります。

6年生時の自主性・リーダー性が培えない

小学校においては、6年生が学校の最上級生という自覚のもと自主性・リーダー性を培ってきましたが、その自覚が薄れるという懸念があります。そこで、先進校ではブロックごとの最上級生に、自主性や責任感、リーダー性を培う取り組みが行われています。また、異学年交流を取り入れることで、節目以外の学年においても取り組むことができます。

小1と中3の差が大きい

義務教育学校では小1から中3の児童生徒が同じ校舎で生活します。異学年交流や学年の縦割り活動などを行う場合、小1と中3では発達段階の差が大きく、同じ活動をするためには十分な配慮が必要となります。

施設や設備についても、体格差・学習内容の違いにより、理科室の学習台や手洗い場の高さ等への配慮が必要となります。これについては、安全で快適な学習環境・生活環境となるような施設・設備の整備を行っていきたいと考えています。

まとめ

小中一貫教育を行う義務教育学校のメリットとして、いわゆる中1ギャップの解消、9年間の一貫した教育などが挙げられます。一方でデメリットとして、小学校高学年でリーダーシップが養われづらくなる、人間関係が固定化しやすいなどが挙げられます。

デメリットの解決策については先進校で様々な取り組みをされています。その事例を参考にするとともに日々の教育活動でそのデメリットを少なくしていく努力が必要です。デメリットの対応だけでなくメリットをより有効にするためには、学校だけでなく、学校・家庭・地域と行政との結びつきが必要です。地域の皆様のご理解とご支援・ご協力をお願いします。



～義務教育学校設立準備委員会ニュース～

義務教育学校名は「江山学園」に！！

鳥取市長により江山校区義務教育学校の名称を「江山学園」とする案が決定されました。

準備委員会では、2月に新学校名を募集し、240名(内江山校区223名)の方から応募をいただきました。これを受け、校名の検討を行い、その結果を市長に報告しました。「江山学園」が一番応募が多かったこと、「江山」という名前は、「江山美生英才」という江山中学校の建学精神に示されているように、自然豊かなこの地域をととてもよく表しており、今の中学校の校名に込められた思いや慣れ親しんだ名称を引き継いでいきたいという地域の思いが詰まっていること、また、小学校と中学校が一体となって義務教育学校になることをシンプルに表した、誰もが呼びやすく親しみがもてる名前であることから、決定されました。6月の市議会定例会で正式決定されることとなります。今後は、校章・校歌の作成に向けて取り組んでいきます。

今年度の準備委員会のメンバー

準備委員会の任期は2年ですが、学校・保育園の教職員の人事異動により、4名の委員が変更となりました。開校まで1年を切りました。委員一同、すごい地域の学校「江山学園」を築くために精一杯がんばっていきます。



【令和元年度 準備委員会名簿】

委員長：栗本保夫 副委員長：上田光徳、橋本伸一

教育環境整備部会		
[主な推進内容]施設・設備等について、校名・校歌・校章の策定 等		
1	◎上田 光徳	美和小学校PTA会長
2	○安田 政彦	美和小学校校長
3	栗本 保夫	神戸地区区長会推薦
4	松本 広幸	美穂地区区長会推薦
5	森田 匡隆	美和保育園保護者会
6	坂本 訓子	神戸小学校PTA副会長
7	牛尾 早知	神戸小学校PTA
8	山本 敏夫	江山中学校PTA
9	鈴木 知加	美和保育園園長
10	橋本 伸一	江山中学校校長
11	梶浦 紀生	神戸小学校教頭

江山の宝応援部会		
[主な推進内容]地域住民・保護者への情報提供、地域・保護者の学校応援について 等		
1	◎山本 賢璋	神戸小学校PTA会長
2	○山根 啓嗣	神戸小学校校長
3	中村 徹	大和地区区長会推薦
4	森下 将伍	美和保育園保護者会副会長
5	有田 京子	美和小学校PTA副会長
6	前田 真琴	美和小学校PTA
7	谷口 範仁	江山中学校PTA会長
8	石尾 万紀子	江山中学校PTA副会長
9	太田 信子	美和保育園副園長
10	山口 尚子	美和小学校教頭
11	長谷川 理恵	江山中学校教頭

(◎:部会長 ○:副部会長)

小中連携委員会

[主な検討内容]カリキュラム、特色ある教育、生活時程、学校行事、学用品、校訓、開校までの3校の交流 等 ※3校の教務主任が中心となって検討

制服検討委員会

[主な検討内容]制服着用学年、新制服とするかどうか、デザイン(※新制服とした場合)等 ※準備委員会の保護者、3校・保育園の教職員の代表が中心となって検討

視察報告 ～県外の義務教育学校ってどんな様子？～

新しい学校づくりに向けて三重県津市美里町立みさとの丘学園と京都府亀岡市立亀岡川東学園に視察に行ってきました。

みさとの丘学園には、3校の教職員と市教委事務局職員が訪問し、新しい学校ができるまでの経緯、県内初の義務教育学校としてめざした教育について学校長のお話を聞いてきました。小規模の3小学校と1中学校を統合した点が、江山地区ととてもよく似ており、参考となる点がたくさんありました。校長先生の「児童生徒の玄関を、前期課程と後期課程で分けてしまったことで児童生徒の触れ合いが減っており、対策を考えている」との話が印象的でした。学校づくりに向けて細かな配慮の必要性を感じる視察でした。



みんなで集える
ホールが自慢です



小中一貫のメリットを
いかして、一部教科担
任制を実施しています



亀岡川東学園には、準備委員会のメンバーが中心となり、教職員、市教委事務局職員で行って来ました。29年度に一体型の義務教育学校として開校された学校で、講堂と体育館は別、多目的ホール「絆空間」、フットサルができるグラウンドなど大変充実した教育環境でした。特に「絆空間」という多目的ホールは図書室を兼ねた施設で、様々な集会や学習に活用できるだけでなく交流給食の場ともなっています。地域と学校の交流ができる、9年間の全校児童生徒が集える空間は非常に魅力的でした。

教育においては、9年間の教育スパンを生かして子どもたちの成長が途切れることのないように努めているとのことでした。また、特色を生かしつつも他校との「違い」を最小限にすることも意識されたようでした。

いずれの学校も教育環境はすばらしく、新しい学校を作るうえでとても参考になりました。各地から視察に来てもらえる学習内容、施設となる学校づくりができたと思います。

お世話になります～制服検討委員会～



小・中学校と保育園の教職員各1名と準備委員会の3校の保護者各3名、保育園の保護者2名で構成した「制服検討会」で次のことを協議していくこととしました。

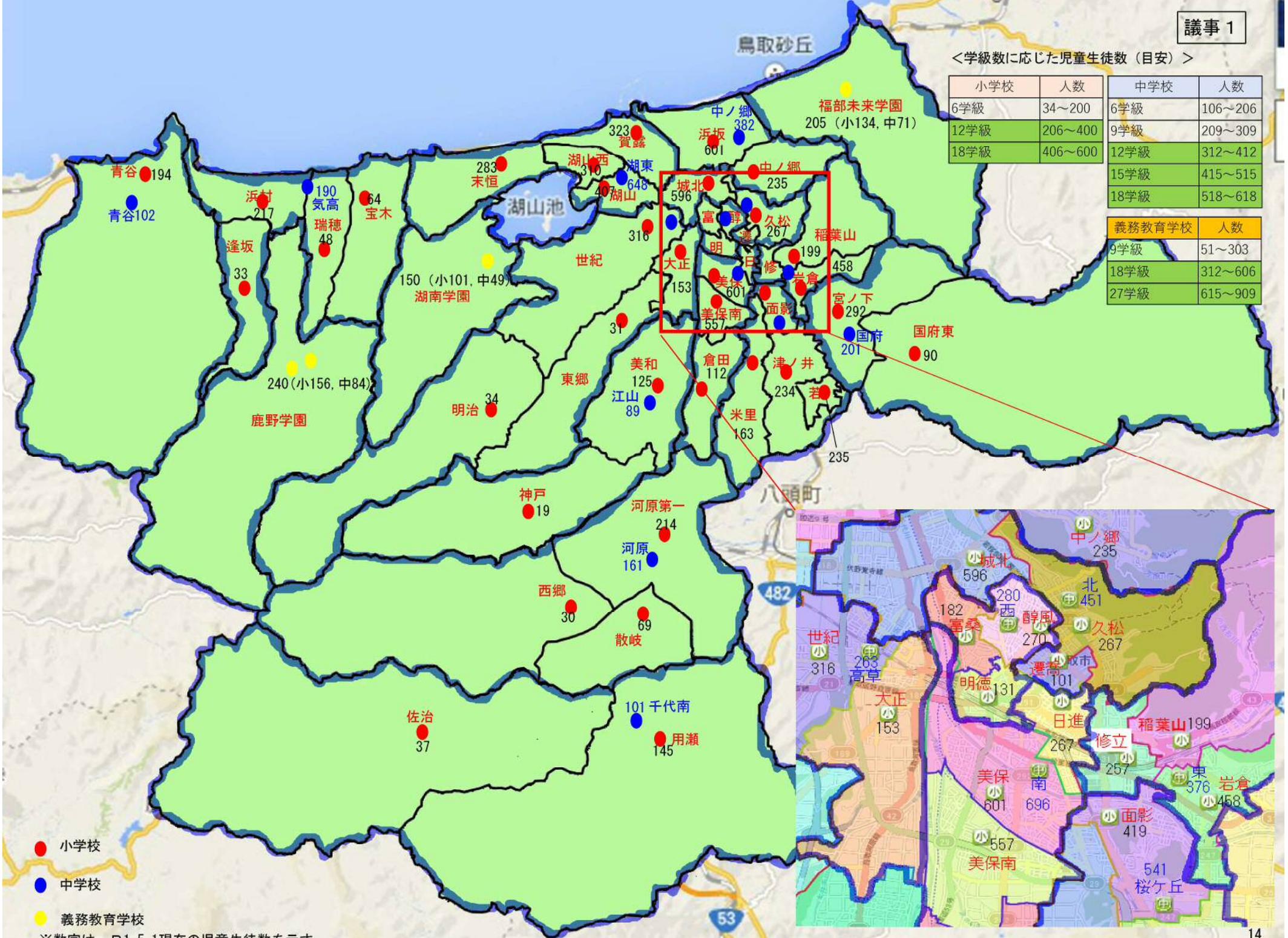
- ・制服着用学年（何年生から着るの？）
- ・新制服作成手順（新しいデザインにするの？）
- ・業者選定・デザイン選定（どんな制服にするの？）

発 行：江山地区義務教育学校設立準備委員会
事務局：鳥取市教育委員会事務局校区審議室
TEL:(0857)20-3089
E-mail:kokushingi@city.tottori.lg.jp

<学級数に応じた児童生徒数(目安)>

小学校	人数	中学校	人数
6学級	34~200	6学級	106~206
12学級	206~400	9学級	209~309
18学級	406~600	12学級	312~412
		15学級	415~515
		18学級	518~618

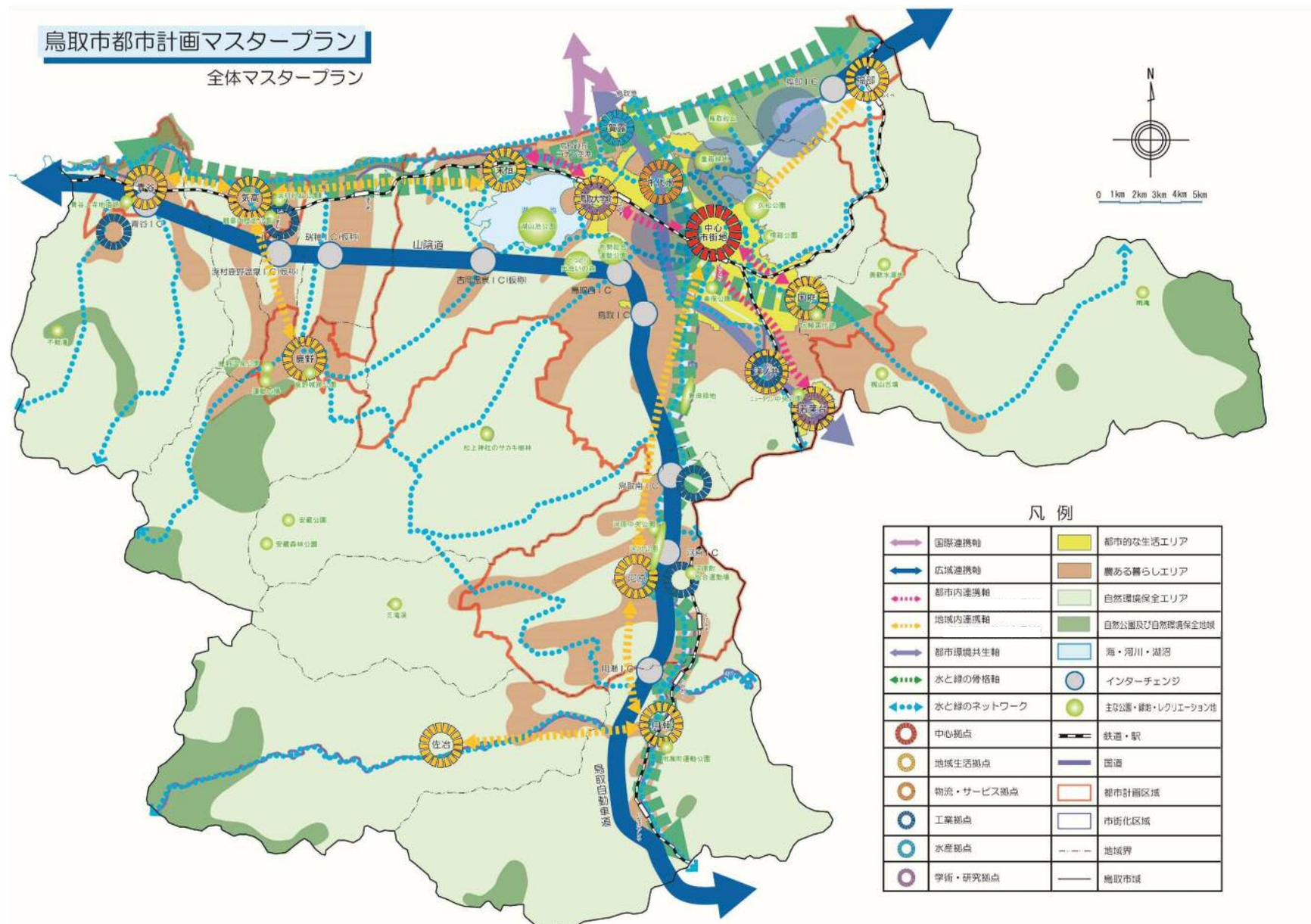
義務教育学校	人数
9学級	51~303
18学級	312~606
27学級	615~909



- 小学校
- 中学校
- 義務教育学校

※数字は、R1.5.1現在の児童生徒数を示す。

7 全体マスタープラン



鳥取市都市計画

マスタープランを策定しました



都市計画マスタープランとは

鳥取市都市計画マスタープランは、概ね30年後の本市の将来像を示す総合的な指針であり、土地利用の基本方針や都市施設（道路、公園等）の配置方針、まちづくりの方向性などをあきらかにすることにより、人口減少・超高齢社会においても、健康で文化的な市民生活の確保や機能的な都市構造の維持を目指すものです。



平成29年3月

鳥取市

1

都市の課題

本市では、市街地の外延化と低密度化が進展し、中心市街地などでは空き家や空き地、駐車場などの低未利用地が増加しています。このような状況が続くと、本市の魅力や活力が低下するだけでなく、公共サービスの低下などを招きます。

地域生活拠点やその他の集落地では、それぞれの地域特性を活かした個性あるまちづくりが進められてきているものの、空洞化・過疎化が進行しつつあります。

超高齢社会の進展により、2040年における75歳以上が占める割合は22.6%（2010年12.7%）となり、5人に1人以上が75歳以上の高齢者となると推計されています。また、晩婚化や未婚率の上昇による少子化も影響し、本市の総人口は現在より約20%も減少すると見込まれています。

このような状況の中、公共交通利用者はこの15年間で半減（平成12年487万人、平成26年236万人）しており、このまま公共交通利用者の減少が続けば、便数の減少だけでなく路線自体の維持が困難となり、自家用車を使用されない高齢者など、買い物や通院、通学などに不便を感じる方が増加することが懸念されます。

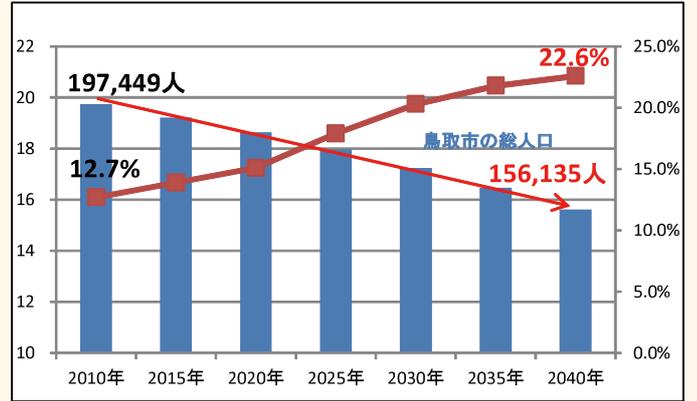


図 鳥取市の総人口と後期高齢者人口割合（75歳以上）の推移
（出典：国立社会保障・人口問題研究所）



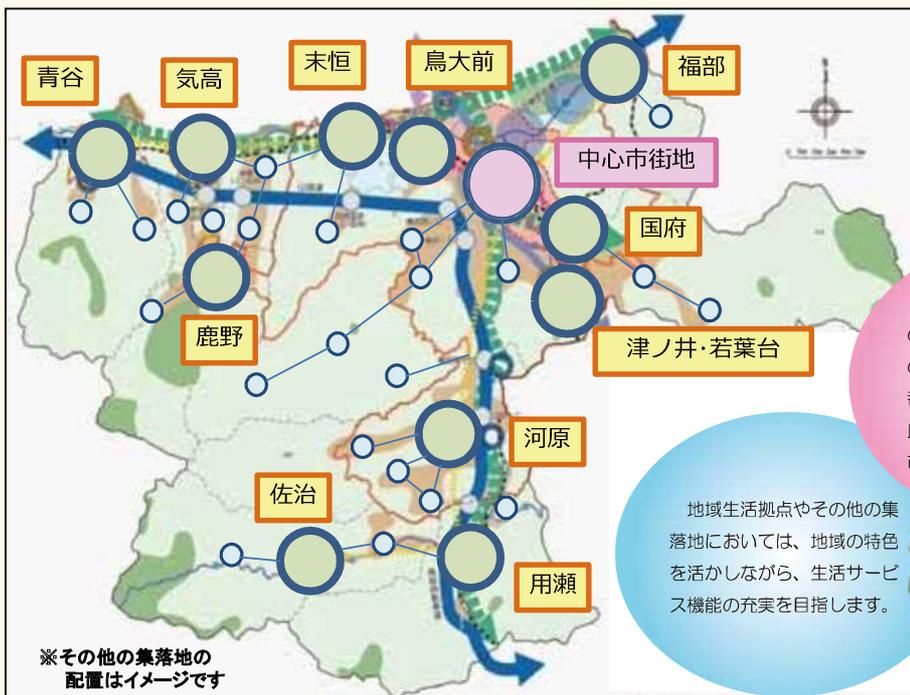
図 バス利用客数

2

都市づくりの理念

～本市の目指す2040年の将来像～

本市では、市民サービスの拠点として、中心市街地を「中心拠点」、各総合支所周辺等を「地域生活拠点」と定め、各拠点や「その他の集落地」を利便性の高い公共交通ネットワークでつなぐ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を本市の将来像とします。



- 中心拠点
- 地域生活拠点
- その他の集落地



中心拠点においては、本市の魅力や活力、公共サービスの低下などを招くことのない、都市機能や居住地がバランス良く配置されたコンパクトな市街地の形成を目指します。

地域生活拠点やその他の集落地においては、地域の特色を活かしながら、生活サービス機能の充実を目指します。

高齢者をはじめとする全ての市民が公共交通を利用して全市域を移動できるよう、公共交通によるネットワーク化を図ります。



※その他の集落地の配置はイメージです

3

中心拠点

～全市民が医療、商業、行政などのあらゆる分野で質の高いサービスを利用することができる、本市の骨格である中心拠点の再生～

○市域の中心として、行政中枢機能・福祉・子育て・商業・業務・医療・金融・教育・文化などの多様な高次都市機能の集積と新たな文化・産業の創出及びそれらが**市域全域に波及するための環境づくり**を進め、賑わいと活気ある山陰地方をリードする中核市としての「求心力」を高めます。

○市域内外の人々が活発に交流する中心拠点として、公共交通の高いサービス水準を維持します。また、全市民が利用する高次都市機能を維持・充実させるため、**長期的な視点に基づく居住の促進**を図り、高い人口密度を維持します。

〈中心拠点のイメージ〉



4

地域生活拠点

～各地域の中心地への福祉、子育て、商業、地域交通等が確保された、市民の日常生活を支える地域生活拠点の充実～

○市民の日常生活を支える「地域生活拠点」では、公共交通の乗継拠点の整備や、空き家など遊休不動産の利活用による施設誘導など、**生活サービス機能の維持・充実**を目指します。

○地域内の人々の日常生活の移動手段として路線バスやコミュニティバスを活用した、適切な公共交通のサービス水準を維持し、**持続可能な地域づくり**を推進します。

〈地域生活拠点のイメージ〉



5

公共交通ネットワークの形成

～バス路線の再編や他の交通手段との連携による、利便性の高い効率的な公共交通システムの構築～

○利便性が高く効率的でわかりやすい公共交通の実現に向け、幹線・支線の役割分担や移動ニーズに応じたバス路線の再編・新設を促進し、鉄道、タクシー、自転車などの交通手段と連携した地域公共交通システムを構築します。

〈公共交通により全市域を気軽に移動できるイメージ〉



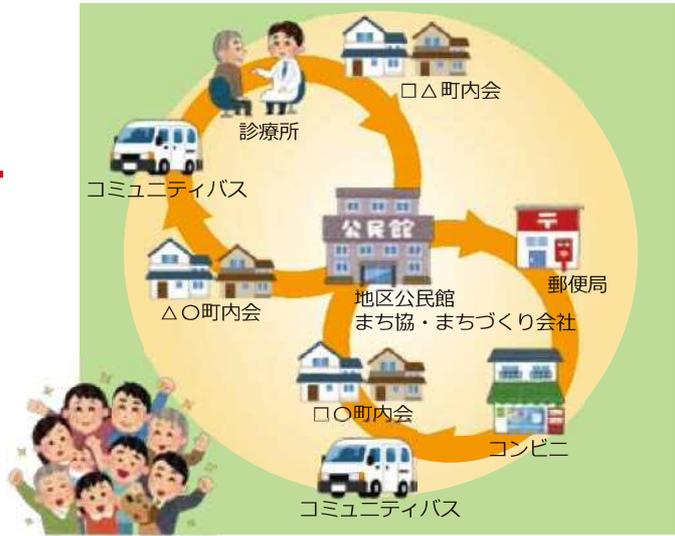
◆安心して住み続けられる地域づくり◆

～協働のまちづくりによる地域コミュニティの充実と、必要な生活サービス機能の確保～

○本市の持続的で均衡ある発展のため、「中心拠点」や「地域生活拠点」での居住促進や機能強化だけでなく、その他の集落地においても、**定住促進によるコミュニティの維持や安全・安心な地域づくり**に継続して取り組めます。

○今後も地域の皆さんとともに、身近な日常生活の核である地区公民館や商店等を中心に、安心して住み続けられる地域づくりを進めてまいります。

〈安心して住み続けられる地域づくりのイメージ〉



鳥取市が目指す『**多極ネットワーク型コンパクトシティ**』について多くの皆さまに知っていただき、市民の皆さまと一緒に鳥取市全体のまちづくりについて考えるため、出前座談会を行っています。

皆様の地域へ
お伺いします。



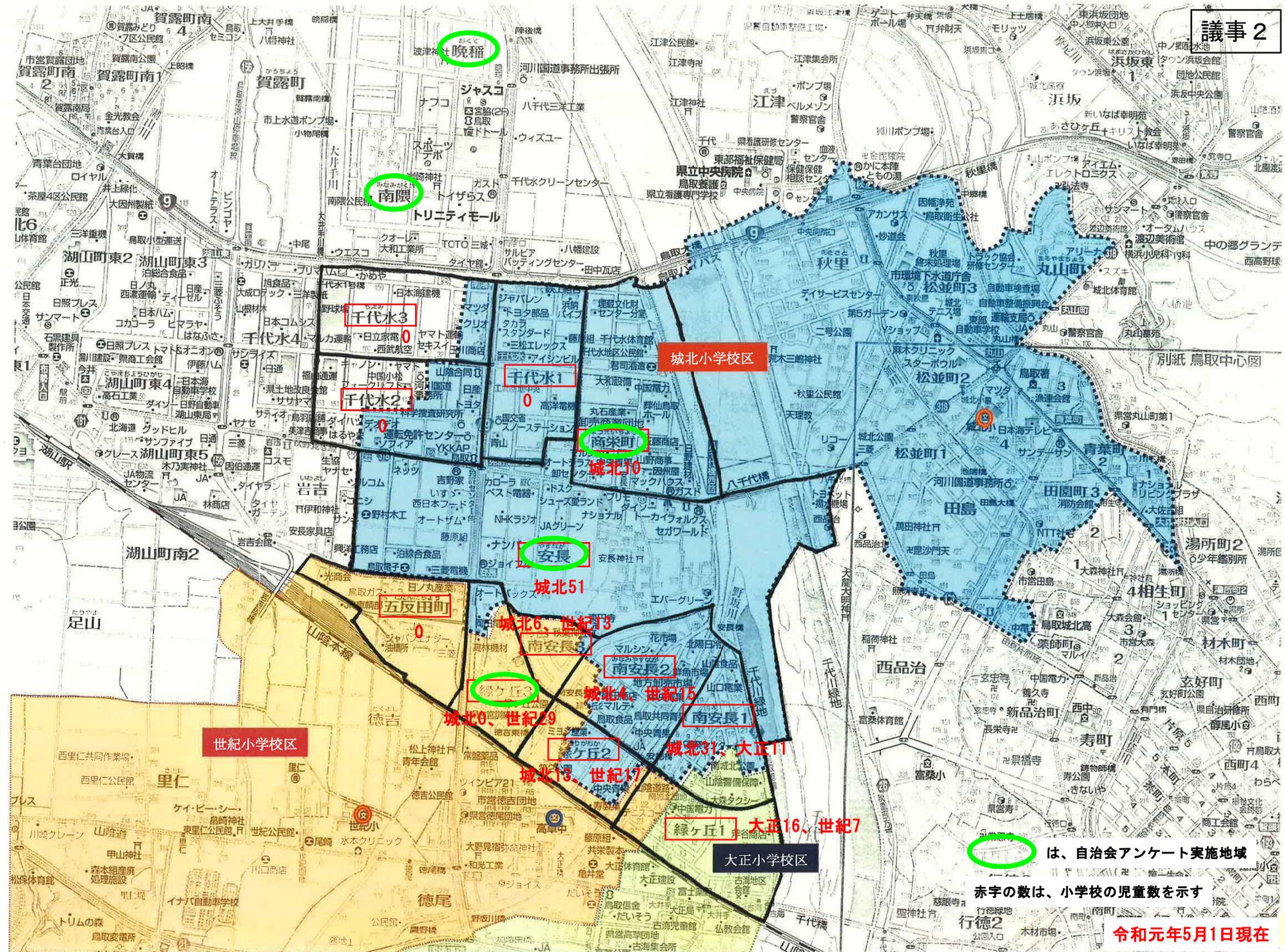
1. 申込み方法（留意事項）
 - (1) 市内在住・在勤・在学の団体又はグループ（5人以上）でお申し込みください。
 - (2) 会場の手配は、地元でお願いします。
2. その他詳細については、都市企画課までご相談ください。



【お問い合わせ先】

鳥取市都市整備部都市企画課（鳥取市役所本庁舎2階）

〒680-8571 鳥取市尚徳町116
TEL: 0857-20-3272
FAX: 0857-20-3048
e-mail: tosikikaku@city.tottori.lg.jp



は、自治会アンケート実施地域
 赤字の数は、小学校の児童数を示す
 令和元年5月1日現在

千代川以西エリアに在住する城北小学校区の子どもの数

2019/5/1現在

		全体	安長	商栄町	南安長1	南安長2	南安長3	緑ヶ丘2	緑ヶ丘3	千代水1	千代水2
	0歳	42	11	12	6	4	0	9	0	0	0
	1歳	34	17	2	7	1	1	6	0	0	0
	2歳	27	12	5	2	5	0	3	0	0	0
年少	3歳	31	10	4	12	1	0	4	0	0	0
年中	4歳	34	16	3	8	1	2	4	0	0	0
年長	5歳	28	7	5	9	3	1	3	0	0	0
小1	6歳	20	11	1	5	0	0	3	0	0	0
小2	7歳	29	13	1	7	2	3	3	0	0	0
小3	8歳	22	7	3	6	1	0	5	0	0	0
小4	9歳	22	6	2	8	1	1	4	0	0	0
小5	10歳	20	9	1	4	1	1	4	0	0	0
小6	11歳	23	11	3	5	1	1	2	0	0	0
中1	12歳	20	13	2	3	1	0	1	0	0	0
中2	13歳	12	4	1	3	1	1	2	0	0	0
中3	14歳	21	8	3	4	0	0	6	0	0	0
	15歳	13	5	3	3	2	0	0	0	0	0
合計		398	160	51	92	25	11	59	0	0	0

千代川以西エリアの児童数(城北小学校区在住)

※城北小学校区:安長・商栄町・千代水1～2・南安長1～3・緑ヶ丘2～3

【年度・学年別児童数】

年度	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		全校		全校生徒数 増減率 (対比R1)
	児童数	学級数	生徒数	学級数											
1	20	1	29	1	22	1	22	1	20	1	23	1	136	6	
2	28	1	20	1	29	1	22	1	22	1	20	1	141	6	
3	34	2	28	1	20	1	29	1	22	1	22	1	155	7	
4	31	2	34	2	28	1	20	1	29	1	22	1	164	8	
5	27	1	31	2	34	1	28	1	20	1	29	1	169	7	
6	34	2	27	1	31	1	34	1	28	1	20	1	174	7	
7	42	2	34	2	27	1	31	1	34	1	28	1	196	8	144.11

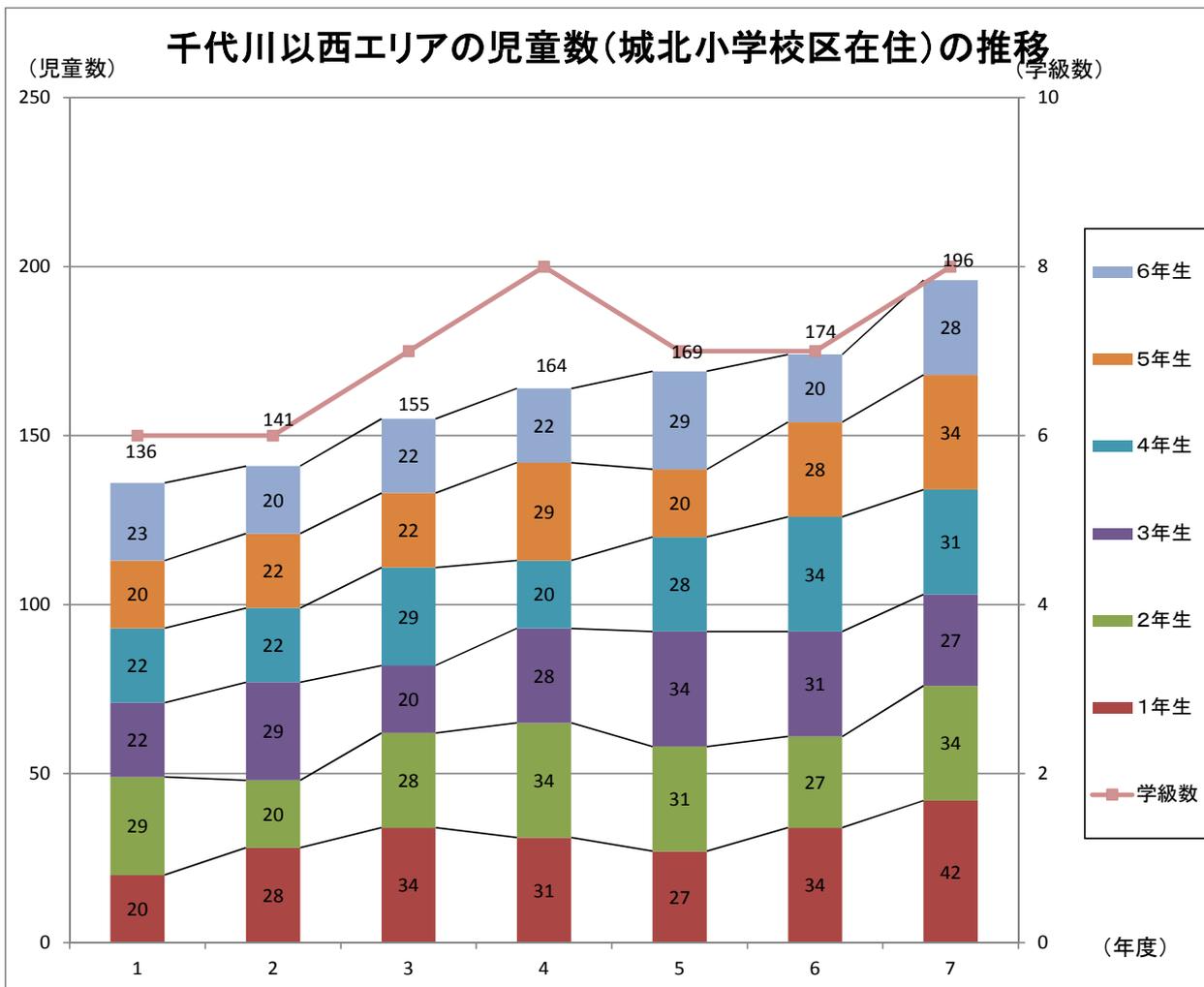
※R1.5.1現在に当該エリアに在住する子どもの数

※R2年度以降の1年生は、R1.5.1現在の該当地域出生児数

※R2年度以降の2～6年生は、前年度の各1学年下の児童数

※学級数は、鳥取県公立小・中・特別支援学校少人数学級編成基準により算出

(1・2年生:30人学級 3年生以上:35人学級)



千代川以西エリアの生徒数(北中学校区在住)

※北中学校区:安長・商栄町・千代水1~2・南安長1~3・緑ヶ丘2~3

【年度別生徒数】

年度	1年生		2年生		3年生		全校		全校生徒数 増減率 (対比R1)
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
1	20	1	12	1	21	1	53	3	
2	23	1	20	1	12	1	55	3	
3	20	1	23	1	20	1	63	3	
4	22	1	20	1	23	1	65	3	
5	22	1	22	1	20	1	64	3	
6	29	1	22	1	22	1	73	3	
7	20	1	29	1	22	1	71	3	
8	28	1	20	1	29	1	77	3	
9	34	2	28	1	20	1	82	4	
10	31	1	34	1	28	1	93	3	
11	27	1	31	1	34	1	92	3	
12	34	2	27	1	31	1	92	4	
13	42	2	34	1	27	1	103	4	194.33

※R1.5.1現在に当該エリアに在住する子どもの数

※R2年度以降6年間の1年生は、R1.5.1現在の該当小学校区各学年児童数

※R8年度以降の1年生は、R1.5.1現在の該当地域出生児数

※R2年度以降の2、3年生は、前年度の各1学年下の生徒数

※学級数は、現在の鳥取県公立小・中・特別支援学校少人数学級編成基準により算出

(1年:33人学級、2・3年:35人学級)

